

天皇在位五〇年

記念祝典に反対声明

連盟理事会が

政府は、天皇在位五〇年を記念するため、十一月十一日日本武道館で記念式典を行なうことを決め、国民がこぞってこの祝典に参加するよう求めたが、これに対し、連盟理事会は記念祝典を開くことに反対し、その意志を内外関係機関に表示するため、次の反対声明を發表した。

記念祝典反対声明

わたしたち日本バプテスト連盟につらなる諸教会キリスト者は、国民すべてがこぞって祝うものであるとして政府が主催して行なう「天皇在位五〇年記念祝典」に対して、反対の意志を明らかにいたします。

天皇の在位五〇年というとき

おいてはアジアの諸国をはじめ多くの人々の生命を奪ったいまわしく暗い歴史を彩っているものであることを忘れることが出来ません。

わたしたちは、これら天皇の名における行為が、旧帝国憲法の「大日本帝国は万世一系の天皇之を統治す」にもとづくものであり、「天皇は神聖にして侵すべからず」によって一切の批判が封圧されてきたことを銘記しています。いままた天皇神格化の動きが顕著であり、今回の「在位五〇年」の動きもこの一連のものであることを深く憂うるものです。

旧紀元節を「建国記念の日」と政令によって施行した政府、自民党と一部勢力は、その後

「靖国神社法案」の立法化を企て天皇親拝を実現させようとしてきました。また今回は、閣議決定により、この「祝典」を実施し、更に内閣告示によって

「元号存続」を表明し、「一世一元制」への道を開こうとしています。わたしたちは、これらの意図するものが、戦前の天皇制の継続であり、再び「皇統連綿」とする皇位継承による天皇神格化の歩みであることを恐れるものであります。

敗戦後、わたしたちの国は、神聖天皇の名によるかずかずのあやまちを悔い改め、「主権の存する国民の総意に基く」国家となるよう、民主憲法を定めています。しかし今また、天皇を

忌しい歴史を塗り消して、日本国統合のかなめとしての神聖天皇を再現しようとすることを、わたしたちは許容することが出来ません。

わたしたちは、このように戦前、戦後の歴史を全く無視した天皇の「在位五〇年」を記念し祝うことに反対の意志を表明いたします。

そしてわたしたちは、戦前、教会がこの天皇制国家の中に屈服して「声」をあげることが出来ず、あの悲惨なわが国の歴史の歩みに従ったことを深く痛みとして覚えつつ、今日、予言者としてのわざをなさねばならぬことを心に刻むものであります

一九七六年十一月一〇日

日本バプテスト連盟